

## 私の海外出張の思い出（第2回）

三多摩支会 国際部

細谷 和丈

### ■第2回目の機会の到来

最初の出張から4年後の1991年(平成3年)に第2回目の海外出張の機会が訪れました。まだ、わが国が米国に約束した輸入半導体のシェア20%達成は出来ておらず、達成を目指して努力していたころでしたが、既にバブルがはじける兆候が見え始め、コンピュータや半導体の先行きが懸念された時期でもありました。しかし、次世代大型コンピュータ用の超LSIの開発に必要な先端装置は既に発注されており、納期フォローが必要な時期でした。前回の成果を踏まえて同年の4月に出張計画を練り提案をしました。今回はすんなりと承認されました。ただし、条件が付きまして。夏休みを含む計画を1ヶ月前倒しするようにとのことでした。その理由は出張後にわかりましたが、会社は8月の人事で既に関連会社への転属を考えていたのでした。

### ■日程・ルート

今回は、英国と米国(東海岸および西海岸)の2カ国の9社のプラントツアーでした。日程は7月1日～13日、ルートは成田～ヒースロー～JFケネディ～タンパ～JFケネディ～サンフランシスコ～成田でした。往路のヒースロー行きは当時、既にアンカレジ経由ではなく、新潟上空からロシア上空(ハバロフスク～レニングラード)、ストックホルム～コペンハーゲンの上空を経てダイレクトに英国へ行ける直行便ができていました。昼間の12:40に成田をスタート

すると24:20ぐらいに着く11時間40分の途方もなく長いフライトでした。本を読む人、映画を見る人、新聞を見る人、音楽を聴きながら仮眠をする人など、機内の風景はいつもと変わりませんが、よく観察すると普段気がつかないことが見えてきたり、客室乗務員に英語で話しかければ、英会話の練習も出来るなど退屈することはありませんでした。しかし、仮眠については色々試しては見ましたが、徒労に終わりました。全体としては、ミッションそのものは前回より重かったのですが、前回の経験を生かしたことで、事前の準備がしっかり出来たこと、そして日程の中間に休日を入れたことで、公私ともに快適なプラントツアーが出来ました。また、自分では気づきませんでしたが、英会話がほんの少し上達したことも幸いしたのかも知れません。

### ■新たに気づいたこと・発見したこと

●英国でがんばる半導体製造装置メーカー  
最初の訪問先はロンドンから車で1時間半ぐらい南の地方都市(フォーシャン)にある米国の半導体装置大手メーカーのエピタキシャル装置事業部でした。当時の英国は失業者が500万人もおり、大学を出ても仕事がないそんな不況の中がありました。当事業部でも人員が減っていました。ナンバー2をはじめマーケティング担当、フューチャシステム担当が出席するミーティングの中では開発中の高信頼性、高パフォーマンス

ンスの装置についてプレゼンがありました。女性の通訳を介しての会話でしたが、既存の装置と比較することでその特徴がある程度理解できました。昼食後の工場見学には通訳が付きませんでした。プリント基板の実装、実装後のプリント基板のテスト、制御ユニットのテスト、メカ部品の組み立て、配管部品の組み立てなどほぼ全工程をまわりました。プリント基板の実装が半自動であったのを除けば国内と遜色ないレベルでした。メカ部品や配管部品の組み立てはクリーンルーム内作業で、クリーン度のクラスは10000。米国本社の考えが浸透しているなど感じました。

●米国法人で生活をエンジョイするたくましい研修生

当社の現地法人の国際調達部門を訪問しましたが、日本から国際調達の研修生を受け入れていました。訪問時アテンドしてくれた研修生の話では、研修も入国審査が厳しくなっていて、実務よりも研修に重点が置かれていて、会社から給料をもらいながら、米国で一年間生活し、社費で英会話の勉強、社外の専門口座の受講、そして休日を使つての米国内の観光などが出来ると聞き、大変うらやましく思った次第です。彼は渡米してまだ2カ月でしたが、車の運転も英語も出来るので独立記念日などの連休を使つて、シカゴやナイアガラの滝などへ出掛けたり、ナパ平原で気球に乗るなど生活をエンジョイしていました。当時27歳だった彼も既に47歳。その後の成長した彼に会って見たい。

●自由であるが厳しい米国流の仕事術

翌日訪問した会社は日本の事業所のソフト開発要員を確保するために設立されたソフト開発会社で、私の事業所からも開発依頼をしていました。社長は日本人で、訪問すると自らがコーヒーを入れてくれ、また会社のプレゼンもしてくれました。そして、11時30分ごろでしたが、スタッフが「日食が見始まります」と言って、社長に声をかける。外へ出ると既に多くの従業員が手に手にピンホールを開けた紙を持って集まっています。日食が始まるのを今かと待っていました。私もトライしましたが、ピンホールが映す太陽が欠けていくのが確認できました。当日は完全日食ではなく85%欠けの日食でしたが、みなさん満足そうでした。また、自然の木の葉に出来たピンホールからも日食が見えたのは新発見でした。就業時間中に日食を楽しむなど、日本では許されないことですが、やることをやっていたら後は本人の自由、これが米国流の仕事のやり方。自由ではあるが、社長自らの定期的なフォローは厳しく、もしも遅れていたたり、うまくいっていなかったりすると大変だそうで、そうならないように残業もすれば休日出勤もするそうです。

■楽しかったこと・感動したこと

●夕方のハイドパークの散歩

英国での宿泊ホテルは車で空港から一時間ぐらいい北の、ハイドパークにごく近い

LONDON HILTON on PARK LANE でした。夕食のまえにハイドパークを散歩しました。予想した以上に大きな公園で歩道、サイクリングロード以外は全て芝生で、緑の絨毯に覆われているようでした。ウィークデーということもあって、人は少なかつ

たが、それでも、そこにはジョギングをする人、芝に寝そべてくつろぐ人、長椅子に座って談笑する人々や池に遊ぶアヒルやカモなど実に静かでのどかな光景がありました。

●ハイヤーを使つてのロンドン市内観光  
はじめは、バッキンガム宮殿での衛兵の交代式の見学、10:30頃から宮殿広場前には人垣が出来始め、広場の前が人で埋まる  
11:30頃交代する衛兵の行進が始まる。遠目にしか見えなかったが、雰囲気は十分に味わえました。

次は、ウエストミンスター寺院、エリザベス女王の戴冠式が行われた場所、とにかく大きく、豪華な装飾、彫刻、天井に描かれた宗教画など、すばらしさには胸を打たれました。

次に、ロンドン塔とタワーブリッジを見学。英国の歴史に出てくる王位継承争いで何人もの人がこの牢獄に閉じ込められ、拷問にかけられたそのロンドン塔です。中には拷問に使われた道具やギロチンが展示されているとのことでしたが、時間がなくかつあいしました。

次は待ちに待った大英博物館。ゆっくり見学したいと思い軽食にパブレストランへ。そこには、スタンド席とテーブル席があり、老若男女がリラックスしてビールやワイン、ジュースなどを飲みながら簡単な食事をしていました。英国には何百年も続いている店がざらにあると聞いてびっくりしました。昼食後大英博物館にタクシーで直行。ここにも多くの観光客。先ず、入場が無料、そのうえ写真撮影も出来ると聞いて驚く。マグナカルタの原文、ロゼッタストーン、ミ

イラ、エジプトの絵文字、王様の石像やギリシャの装飾など本物を見ることが出来ました。世界の歴史を本ではなく現物で見られることの幸せを実感しました。英国が世界を支配した時代に集めたコレクションではありますが、分散することなく、こうして一箇所で見る事が出来るのもある意味では多くの人にとって良かったとも言えるのではないかと思いました。また、何十もの棺が並べられ、ミイラが多くの見学者の目にさらされていたのには驚きました。

●上流階級の社交場を覗く

ロンドン観光の後日本食レストランで握り寿司で腹ごしらえしてスパニッシュダンス観劇のため会場に急ぎました。200席ほどの会場はほぼいっぱい、人気のほどが伺えました。舞台の上でオーケストラの歯切れの良い音楽に合わせて静かにダンスが始まりました。ダンス、音楽、歌どれをとっても全てがすばらしく感動的でした。一曲終わるごとに大きな拍手が会場に鳴り響き、なんとといってもダンスのダイナミックな動きと足の細かな動きはプロ一流の、それも世界一流のパフォーマンスでした。途中10分ぐらいの休憩があり、観客は小さなバーで思い思いに飲み物をオーダーし、歓談しながら飲んでいる。アテンドしてくれた彼女の話ではこのような劇場に入れるのは上流階級の人だそうです。多くの英国人の中に日本人が二人いても何の違和感も無く、不思議な感じ。休憩後の後半のパフォーマンスも言うまでもなく、前半に劣らず素晴らしいものでした。

短い時間でしたが、ロンドンの主要観光やスパニッシュダンスの観劇ができたことは忘れがたい思い出の一つになりました。そ

れらができたのも、私がいた事業所の所長のお嬢さんがたまたま出張先企業の社員として働いておられて、アテンダントを引き受けてくれたおかげでした。

●サンフランシスコのカラオケバー。  
日本食のレストランがあり、寿司も食べられることは知っていたが、カラオケがあるのは知りませんでした。

●サンフランシスコの「SHORELINE GOLF LINKS」でのゴルフ。  
このゴルフ場はサンフランシスコ湾に面した公園の中にあるパブリックコースです。グリーンおよびフェアウエーは全てベント芝、フェアウエーは少し剥げているところもあったがグリーンはしっかり整備されていて、初めてカートで回りました。当時、日本にはまだカートはなかったと思う。20:00ぐらいまで明るいので14:00頃のスタートでもゆっくりプレイが出来ました。スコアは110と不本意でしたが、適度に疲労したことで当日は熟睡出来ました。

●カルフォニアワインのワイナリー (napa valley vintners) 見学  
なんとワイナリーが400ぐらいあり、スケールの大きさにいまさらながら驚きました。

●フロリダ タンパでのブッシュガーデンの見学  
多くの巨大なワニが放し飼いになっており、自然の中でそれらを観察で来たこと。これも日本では想像を超える広さの公園。

二回にわたる私の海外出張の思い出を古い手帳の記録をたよりにまとめて見ました。

海外情報としてはあまりに古すぎて参考にならないと思いますが、私自身としてはこの機会に過去の懐かしく楽しい思い出を整理し、お世話になった多くの方々にあらためて感謝する良い機会になりました。ありがとうございます。

以上